

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院分院リハビリテーション科・リハビリテーション部では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

2016年4月1日～2017年3月31日の間に、延髄外側梗塞のために虎の門病院分院リハビリテーション科に入院し、筋力低下と眼球運動障害を有し、リハビリテーションを受けられた方

【研究課題名】

Ocular Lateropulsion を呈した Opalski 症候群例
一回復期リハビリテーション病棟での経過と発症13ヶ月後の帰結

【研究の目的・背景】

《目的》対象者の当院入院中の筋力、眼球運動障害及び日常生活動作能力の経過をまとめ、発症13ヶ月時点での復職の可否を報告します。これらにより同様の障害を有した方のリハビリテーションにおける、治療設定の1つの指標となります。

《研究に至る背景》延髄外側梗塞後に病巣側の筋力低下を呈した報告や、眼球運動障害を呈した報告は少なく、経過や予後は不明な点が多いです。特に復職の可否について報告されたものはございません。

【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2017年12月28日～2019年12月31日

【単独／共同研究の別】

虎の門病院分院単独研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては、特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。正面を見た際の眼球の写真も提示しますが、眼球のみを白黒で提示し、眉や鼻などは提示しないことで、個人の特定を防ぎます。学術大会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような

形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は虎の門病院分院・リハビリテーション部・加藤将暉のもと研究終了後 1 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【診療情報を虎の門病院分院外へ提供する場合】

診療情報は、虎の門病院分院外へは提供致しません。

【利用する診療情報】

年齢、性別、利き手、診断名、障害名、現病歴、既往歴、合併症、頭部 MRI 所見、リハビリテーションの内容・経過、発症 13 ヶ月時点での復職の可否、意識レベル（Japan Coma Scale）、脳神経検査、眼球運動検査（衝動性眼球運動、滑動性眼球運動、正中視での眼位写真）、深部腱反射、病的反射、筋緊張（Modified Ashworth Scale）、運動麻痺（Brunnstrom Stage）、体性感覚、筋力検査（徒手筋力検査法）、歩行速度（10m 歩行テスト）、日常生活動作能力（Barthel Index）

【研究代表者】

虎の門病院分院 ・ リハビリテーション部 ・ 加藤将暉

【虎の門病院分院における研究責任者】

リハビリテーション部 ・ 大賀辰秀

【利用する者の範囲】（全列記）

虎の門病院分院 ・ リハビリテーション部 ・ 加藤将暉

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2018年2月1日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはあ

りません。

【相談窓口】

虎の門病院分院 リハビリテーション部 ・ 加藤将暉

電話 044-877-5111(代表)